

福原 紀彦



中央大学 学長

福原教授は、2018年5月27日付で、再度、学長に就任した。

福原学長は1954年滋賀県生まれ。1984年中央大学大学院法学研究科博士後期課程満期退学後、杏林大学助手、専任講師、助教授を経て、1993年中央大学法学部助教授、1995年教授、2004年から法科大学院教授、弁護士（東京弁護士会）。2007年から中央大学大学院法学研究科長（2011年まで）、2011年から総長（2013年ま

で）、中央大学学長（2014年まで）を務めた。

また、放送大学客員教授、防衛省防衛施設中央審議会会長、公認会計士試験委員、法科大学院協合理事、文科省大学設置学校法人審議会委員、日本私立大学連盟常務理事、大学基準協会理事、東都大学野球連盟理事長などを歴任。

専門分野は民法法学。主な著書は、『企業法総論』『企業取引法』『企業組織法』（文真堂）、『企業法務戦略』（編著、中央経済社）など。所属学会は、日本私法学会、日本海法学会、比較法学会、日米法学会、金融法学会など。

福原学長は、世界水準の研究の推進、学生本位の教職協働と多様な社会連携のもとに、伝統ある実学教育とハートフルな学修環境を維持発展させ、時代とともに社会とともに、愛され存在感のある中央大学の新たな歴史の創造を目指す。

田上 博司



阪南大学学長

井上博学長の任期満了に伴い、4月1日付で田上博司氏が学長に就任した。任期は3年。

田上学長は1954年生まれ、大阪府出身。1977年神戸大学経営学部卒業。専門分野は「情報学」。主な著書は『マルチメディア情報学概論』『デジタルコミュニケーション』など多数。

一般企業の人事部門などを経て、1979年学校法人帝塚山学院に奉職し、総合情報センター長などを歴任。

2004年4月に阪南大学の経営情報学部専任講師として着任。准教授を経て、2009年4月教授に就任し、6年間教務部長を務めた。2015年4月から2018年3月まで経営情報学部長ならびに学園理事、評議員を務め、教学の充実と法人運営に尽力した。

学長就任とともに、社会的要請に応えるべく、教養教育の充実などによって阪南大学が推し進める「実学教育」をさらに深化させ、「即戦力となる実践的な専門的知識・能力と幅広い教養を併せ持った人材」の育成を教育改革の柱に据え、大きく動き出している。

世界シンセサイザーミュージックテープコンテスト（ロンドン杜主催）でクラスBグランプリ受賞歴を持ち、音楽活動でも活躍。また、世界中で連盟公認スキューバダイビング上級指導員の資格を持つなど、多才な新学長である。

小尾 敏夫



西武文理大学学長

徳田行延前学長の任期満了に伴い、4月に小尾敏夫新学長が就任した。小尾新学長は慶應義塾大学で学士、修士（いずれも経済学）、早稲田大学で国際情報通信学博士号を取得している。職歴は国連企画官、コロンビア大学研究員、文教大学教授、早稲田大学大学院教授を経て現職。専門はICT、電子政府、CIOなど。早大時代から国連ITU事務総長特別代表、OECDシルバリエコノミー委員長、APPEC電子政府研究

所長、世界経済フォーラム未来政府委員のほか、国際CIO学会世界会長を3期9年務めるなど、国際派である一方、国内でも内閣府IT戦略本部委員、総務省電子政府推進員協議会会長、早大電子政府自治体研究所長など、多彩な経歴を持つ。総務大臣賞2回、前島密賞なども受賞。著書は『日米官僚摩擦』（講談社）や、本年発刊の『2030年日本経済復活へのシナリオ』（毎日新聞出版、共著）など30冊以上にのぼり、趣味も文化遺産巡りやワインの飲み比べなど幅広い。

西武文理大学は、サービス経営と看護の2学部による、ホスピタリティをコアにしたイノベティブな実務教育が特徴。超高齢社会と情報革命の融合に挑戦。貢献できる創造性豊かで先端的な人材の育成が新学長の抱負。半世紀の歴史を有する総合学園の中で、20周年を迎える大学の新たな取り組みが期待されている。

UNIVERSITY CURRENT REVIEW



奇数月20日（年6回）刊行

●WEBサイトにて、全文無料公開中

※第324号（2009年1月発行）から

詳細は

<http://daigakujihou.shidaiaren.or.jp/>



第380号（2018年5月発行）

【特集】

大学図書館最新事情



【座談会】

私立大学における女性のキャリア形成

【インタビュー】

北 義則氏（株式会社トーカ堂代表取締役）

第381号（2018年7月発行）

【特集】

留学（海外送り出し）に伴う問題への取り組み



【座談会】

未来を先導する私立大学の将来像

【インタビュー】

富田 洋之氏（順天堂大学スポーツ健康科学部准教授、体操競技部コーチ）

永田見生 学校法人久留米大学理事長、久留米大学学長。'73久留米大学医学部卒。医学博士。久留米大学医学部長などを経て、'12から久留米大学学長、'17から現職。

齊藤 昇 立正大学長、文学部教授。'83立正大学大学院文学研究科博士後期課程英文学専攻満期退学。文学博士。主著『ワシントン・アーヴィングとその時代』など。

山田礼子 同志社大学社会学部学長、教授。'93 UCL A教育大学大学院社会科学・比較教育学専攻博士後期課程修了 (Ph.D in Education)。大学教育学会長。

相生芳晴 学校法人上智学院IR推進室室長、IT企業から転職後、学事センター、情報システム室を経て、'18から現職。編著『大学IRスタンダード指標集教育質保証から財務まで』。

森 朋子 関西大学教育推進部教授。'08大阪大学大学院言語文化研究科博士課程単位取得退学。博士 (言語文化学)。主著『アクティブラーニング型授業としての反転授業』など。

山本幸一 明治大学教学企画部教学企画事務室。明治大学大学院ガバナンス研究科修士課程修了。'94明治大学に入職。共著に『内部質保証システムと認証評価の新段階』など。

山田健太 専修大学文学部 (人文・ジャーナリズム学科) 教授。'84青山学院大学卒。専門は言論法、ジャーナリズム論。近著『見張塔からずっと』『放送法と権力』ほか。

豊田雅幸 立教学院展示館学術コーディネーター。'02立教大学大学院文学研究科史学専攻博士後期課程満期退学。立教大学文学部史学科助教を経て、'14より現職。

松本郁子 東洋英和女学院史料室職員。'18東京大学大学院人文社会系研究科文化資源学研究専攻博士課程在籍中。'184月より現職。

田辺勝巳 愛知大学豊橋研究支援課長 (東亜同文書院大学記念センター、三遠南信地域連携研究センター、事務責任者兼務)。'89愛知大学入職。8部署を経て、現職8年目。

渡邊 卓 國學院大学研究開発推進機構助教。國學院大学大学院文学研究科博士課程単位取得満期退学。博士 (文学)。'13から現職。

尾崎健夫 早稲田大学文化推進部 (特任職)。早稲田大学理工学部建築学科卒。キャンパス企画部企画・建設課長、會津八一記念博物館事務長などを歴任。共著『キャンパス再生のすすめ』など

橋爪節也 大阪大学社会学共創本部・総合学術博物館教授。'70東京藝術大学大学院修士課程修了。大阪市立近代美術館建設準備室を経て、'07から現職。主著『大大阪イメージ』。

大村雅彦 学校法人中央大学理事長、中央大学大学院法務研究科教授。'79同大学院法学研究科前期課程修了。'13博士 (法学)。'17から理事長。主著『比較民事司法研究』など。

川畑一成 学校法人関西大学理事、関西大学教育後援会幹事長 (理事長付局長)。'81関西大学法学部卒。研究推進部次長、学長室長などを経て現職。

伊藤 大 宮城学院生活協同組合専務理事。
東北大学生活協同組合を経て、'13現職に就任。

権 瞳 阪南大学国際コミュニケーション学
部教授、学生部長。同志社大学大学院アメリ

カ研究科博士課程単位取得退学。専門は英語
教育とマイノリティの教育。

堀之内 一徳 大阪学院大学庶務課課長。京都
産業大学外国語学部ドイツ語学科卒。'98大阪

学院大学入職。教務課課長を経て、'17から現職。

西川佳男 拓殖大学工学部助教。'12拓殖大学
大学院工学研究科機械システム工学専攻博

士課程単位取得退学。'13博士（工学）。'17から
現職。

志藤修史 大谷大学社会学部長、教授。'88龍
谷大学文学研究科社会福祉学修士課程修了。'18

から現職。地域福祉学を専攻。主著『社会福
祉の基礎理論』など。

吉田 善一 東洋大学理工学部教授。松下電器
産業(株)（現・パナソニック）、山梨大学を経

て、'00年4月から現職。専門はナノテクノロ
ジー、プラズマ、科学哲学。

水島祥子 松山東雲短期大学現代ビジネス学
科講師、宗教主事、ボランティアセンター長。'05

同志社大学大学院神学研究科博士課程前期課
程修了。神学修士（聖書学）。'15から現職。

久米 隼 成蹊大学ボランティア支援セン
ター・ボランティアコーディネーター。立教

大学大学院博士課程前期課程修了（MBA in
Social Design Studies）。

伊藤克容 成蹊大学ボランティア支援センター
所長、経済学部教授。一橋大学大学院商学研

究科博士後期課程単位取得退学。主著『組織
を活かす管理会計』など。

岡戸良子 清泉女子大学ボランティアラーニ
ングセンター長。

善竹富太郎 '79年8月10日生まれ。学習院大学
文学部心理学科卒。祖父・故善竹圭五郎、父・

善竹十郎に師事。3歳で稽古を始め、5歳の
時に狂言「靱猿」の小猿役に初舞台を踏む。

現在は自主公演『渋谷の夜の狂言会』『銀座の
夜の狂言会』『狂言道場』『SORORI』な
どを主催して狂言を広める活動も行っている。
桐朋学園短期大学演劇科、昭和音楽大学短期
大学ミュージカル学科の講師。

外川智恵 大正大学表現学部准教授。大正大
学文学部卒。'92山梨放送入社。'01からフリー

として活動。TOKYO FM「SYMPHONIA」
（月曜・木曜）のパーソナリティも務める。

〈お断り〉本稿は、お書きいただいた資料から、できる限り統一して掲載いたしました。

会長の動き 2018年
7月・8月

● 7月10日(火)
日本経済団体連合会の岡本園衛副会長と対談

● 7月17日(火)
第3回常務理事会・第5回理事会に出席

● 7月31日(火)
全私学連合・代表者会議に出席
林芳正文部科学大臣および政務官などに平成31年度私学関係府予算および税制改正要望を手交

● 8月23日(木)
内閣府大臣政務官などに平成31年度地方創生に係る私立大学関係予算に関する要望を手交

私大連では、新たに創設された内閣府「地方大学・地域産業創生事業」をはじめ、国の地方創生に関する予算事業について、私立大学にとってより使い勝手の良い予算事業となるよう改善要望などをとりまとめた。また、総務省「特別交付税措置」を活用して、私立大学個々の地方貢献の取り組みを支援する新たなスキームなども要望した。

開催報告

● 7月27日(金)～28日(土)
【第1回財務・人事担当理事者会議】開催



まち・ひと・しごと創生本部事務局
地方創生総括官に要望内容を説明



内閣府大臣政務官に要望書を手交

「社会変革と大学経営」将来の大学のあり方と大学職員の育成」をテーマに、都市センターホテル（東京都千代田区）にて開催。67法人99名の参加があった。

● 8月7日(火)～8日(水)
● 8月9日(木)～10日(金)

【FD推進ワークショップ】【新任専任教員向け】開催

「大学教員の職能開発とFD」をテーマに、グランドホテル浜松（静岡県浜松市）にて、模擬授業と参加者同士の意見交換を中心に開催。両日程あわせて33大学77名の参加があった。

● 8月21日(火)～22日(水)
【監事会議】開催

「監事の役割と実践」をテーマに、ホテルグランヴィア大阪（大阪府大阪市）にて開催。70法人96名の参加があった。

● 8月27日(月)～28日(火)
【教学担当理事者会議】開催

「大学の教育力評価と実践」私立大学の教育力向上のために」をテーマに、ANAクラウンプラザホテルグランコート名古屋（愛知県名古屋市中区）にて開催。61法人73名の参加があった。

未来を先導する私立大学の将来像

－2040年を見据えた私立大学の大学改革と人材育成－

急速な若年層人口の減少、人生100年時代の到来、第4次産業革命など、大きく変化する社会環境の中で、大学の教育目標も変容し、私立大学の教育研究は変わっていかざるを得ません。日本私立大学連盟は、激変する社会状況と将来（2040年）を見据え、私立大学の多様性を維持し自らの方向性を示すべく、『未来を先導する私立大学の将来像』をとりまとめました。

本フォーラムでは、国や産業界のトップリーダーを交え、それぞれの視点から大学の将来像について議論し、高等教育の基幹となる私立大学の役割と意義を示します。

日時 2018年10月17日(水) 14:00～17:30 (受付13:30～)

会場 第一ホテル東京 5階「ラ・ローズ」

参加無料

事前申込

定員400名

第1部

講演

(14:00～15:40)

1 「わが国の高等教育の将来像－大学の役割・機能、規模、連携・統合－

義本博司氏（文部科学省高等教育局長）

2 「産業界が求める私立大学の役割と期待」

岡本 毅氏（一般社団法人日本経済団体連合会副会長・教育問題委員長、
東京ガス株式会社相談役）

3 「未来を先導する私立大学の将来像」

田中優子氏（私大連常務理事・総合政策センター政策研究部門会議部門長、
法政大学総長）

第2部

パネル
ディスカッション

(16:00～17:30)

パネリスト

北山禎介氏（中央教育審議会会長、株式会社三井住友銀行特別顧問）

高橋 進氏（経済財政諮問会議議員、人生100年時代構想会議議員、
株式会社日本総合研究所チェアマン・エメリタス(名誉理事長)）

鎌田 薫氏（私大連会長、早稲田大学総長）

村田 治氏（私大連副会長、関西学院大学長）

コーディネーター

松岡 敬氏（私大連常務理事・総合政策センター広報・情報部門会議部門長、
同志社大学長）

対 象 大学関係者、学生、企業、行政、マスコミ、一般の方など、
私立大学の未来について関心のある方、どなたでもご参加いただけます。

申込方法 締切 2018年10月12日(金) 17:00
インターネットからお申し込みください。なお、お申し込み
は定員に達し次第、締め切らせていただきます。
<http://www.shidairen.or.jp/>

私大連フォーラム



アクセス 第一ホテル東京 5階「ラ・ローズ」

所在地 〒105-8621 東京都港区新橋1丁目2番6号

T E L 03-3501-4411

U R L <https://www.hankyu-hotel.com/hotel/dh/dhtokyo/access/>

座談会 「地方自治体と大学の就職に関する協定締結による地域活性化への期待」

特集 「大学は自然災害とどう向き合うか」

小特集 「魅力ある大学院をどうつくるか」

表紙・大学点描 大谷大学 だいがくのたから 関東学院大学

クロースアップ・インタビュー：

「石村 一枝さん（株式会社石村萬盛堂専務取締役）」

編集後記

◆昨今の大学博物館は、明確なコンセプトによって魅力あふれる展示物を備え、学校関係者だけでなく、地域・社会の人々に親しまれる施設が増えている。それぞれの博物館にはそれぞれに個性があり、その個性はその大学の教育・研究、歴史から生まれている。「大学博物館」という個性から大学を見てみると、大学の規模や偏差値などとは異なる印象を持つことも少なくないだろう。

本特集では、いろいろな面から注目されている施設の沿革やコンセプト、日常の活動などをご紹介いただき、知られざる現場の課題や工夫、ストーリーやエピソードに触れることができた。

このような大学博物館のバックグラウンドを垣間見ることで、大学博物館をより一層身近に感じ、その大学の個性を理解し、共感する機会となれば、個々の大学の新たな評価にもつながるのではないだろうか。大学博物館の役割は、「宣伝」という言葉以上に深い意義があることを改めて確信した。（広報・情報部門会議（大学時報）委員・立教大

学広報課長 長野 香

◆「親のこころ子知らず」とはよく言ったものだ。いつの時代にも子を思う親や保護者の気持ちには、子どもが察している以上の奥深い思慮がある。小生の大学生時代、携帯電話が一般に普及する直前、下宿ではピンク色の公衆電話を共同利用していた。そこに、故郷から届くダンボールの中的一筆箋に書いてある優しい一言は、失いかけていた学生生活の初心を取り戻し、活を入れ直してくれた。

通信手段が発達して以降、人々はさまざまな手段でつながり、「せつない」や「さびしい」という概念がなくなっただけではと思う時期があったが、そうではないようだ。「つながる」がゆえに、人間関係の構築やコミュニケーションにおいて、さまざまな感情や心配は今も生きている。自宅生、下宿生関係なく、入学時の不安は皆同じであろう。

今回の小特集のキーワードは、「友人」「保護者」「在学生」「オール」の取り組みであった。各大学とも充実した学生生活のスタートに腐心し、全学を挙げて懸命に取り組む姿が読み取れる。ご執筆から感謝申し上げる。（広報・情報部門会議（大学時報）委員・立教大

員・関西大学総合企画室広報課長 依藤 康正

◆クロースアップ・インタビューでは、狂言師の善竹富太郎さんにお話を伺った。

善竹さんは3歳で狂言の稽古を始め、5歳の時に狂言「朝猿」の小猿役で初舞台を踏んだ。現在は、自主公演「渋谷の夜の狂言会」を主催するなど、狂言を広める活動も積極的にを行っている。

現在の狂言は、演者自身が解説してから演じるスタイルが増えており、室町時代から続く約650年の歴史を誇る狂言をいかにお客様に分かりやすく見ていただくか、また狂言の特徴でもある繰り返しの表現を省略するなど現代にあわせたさまざまな工夫がなされているという。伝統を守りながらも、狂言という文化を受け継いで、未来へ引き渡すという強い意志を感じた。現在、私立大学においても18歳人口の減少や社会の要請により、多分野にわたる改革に迫られている。創立当時に定められた建学の精神も必要に応じて現代の言葉に置き換えながら、その精神を未来へ伝えていく必要があるかもしれない。（日本私立大学連盟事務局 佐藤 義文）

[illegible]

©無断転載はご遠慮下さい。落丁・乱丁本はお取り替えいたします。

